

御嶽の冬景色

この号が発行される九月二十九日の夕刻、当社では流鏝馬祭が執り行われる。古くは、騎射も行われていたが、今では馬は使わずその儀式のみを伝えている。

この頃の御嶽はもう朝晩肌寒く、さらに十月下旬ともなると山々が色づき、紅葉狩りに多くの人が訪れる。

十二月、その賑いがひと段落すると、寒さが一層厳しくなり初氷、初雪、そして本格的な冬の到来となる。

最も冷える節分の頃は零下

十度を下る日もあり、そんな



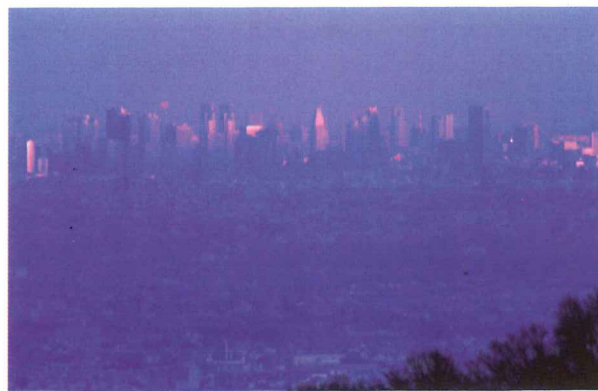
澄みきった夜空には、星々が瞬き、天の川もみることが出来る。しかし、なんととっても目につくのは関東平野の夜景。ビルや幹線の明かりが色



鮮やかに光輝く。やがて迎りが白み朝焼け、そして日の出、朝日が新宿のビル群を赤く染めると、これから二時間くらいが一番の見所。朝日で東京湾が映し出され、東京から横浜にかけての湾岸がはっきり確認できる。大きな船は肉眼で見え、その



先の薄雲がとれると房総半島の山並みまで姿をあらわす。さらに少し経つと今度は太陽が相模湾を照らし、三浦半島や江ノ島も見ることが出来る。冬の寒い日、御嶽の自然の厳しさ雄大さを感じながら、都会の喧噪をこんな遠くで眺めるのも楽しい。



石段の奉納

本年も、ご講中のご尽力により、石段の奉納がございました。

金井俊雄社中、練馬区大泉一心講（講元平野繁太郎氏）、天野光紘社中、保谷市下保谷講（講元加藤昭夫氏）二講の皆様方により、大鳥居の上五段ずつ十段の奉納をいただきました。

今後とも、石段整備事業として、皆様方のご協賛を願ひ申し上げます。



奉納俳句 受付け始まる

本年より四季を通して受付けることとなりました。左記要項により募集致しますので、多くの皆様の投句をお待ち申し上げます。

- 第二十八回奉納俳句募集要項
- 一、作品は未発表に限る
 - 一、受付けは指定用紙にて投句箱へとする（郵送等直接の受付けは致しません）
 - 一、締切りは平成十三年一月三十一日
 - 一、表彰は平成十三年三月上旬
- （入選作品の発表は、武州みたけ十六号誌上）



伝法



当社の神職となるためには、古来から「伝法」という儀式を経なければならぬ習わしがあるが、本年は片柳貴史君（十七才）、橋本土慈君（十六才）の二名が、七日間社務所に籠り、伝法を受けた。三食をお粥で過ごし、朝、夕には綾広の滝で禊を行い、空腹と正座の痛みに耐えながら、神社祭式や行事作法などの講習を受けた。若い二人には辛い



日々であったが、八月二十日に始まった伝法は無事に終了し、神職となる第一歩を踏み出した。

インターネット

近年パソコンが普及し、インターネットで各種情報、案内が手軽に入手出来るようになりました。当社でも「ホームページ」などと検討していますが、現在御岳山などの案内を載せたホームページが開設されていますので、一部ですが紹介致します。

御岳登山鉄道 <http://www.mitaketozan.co.jp>

この他にも御岳山の宿など、6軒程ホームページを開いている所があるので、ご覧いただけたらと思います。